

東海・東南海地震を対象とした地域防災力診断アンケートの基礎的分析

○松田曜子・糸谷友宏・岡田憲夫

1. はじめに

このところ頻発した災害を受け、また東海・東南海の巨大地震に向け、自分達が暮らす地域を住民自らの手で地震に強いものにしており、災害発生時に備えようとする動きが活発化している。さらにそのような事前の備えを支援する防災NPO(非営利団体)の活動も芽生えつつある。しかし、「地域コミュニティにおける自助努力型のリスクマネジメント」ともいえるこのような試みは新しく、また地域固有の要因が直接活動のプロセスに反映されるために、普遍的な方法論を確立するのは難しい。そのため各地域で独自に方策を模索する段階にあり、現状では地震の専門家を招いた講演会や家具転倒防止の広報、防災訓練の開催などが活動の主流となっている。

著者らと連携して活動する防災NPOが上述のような活動を支援する中で浮上した課題は、その地域にとって必要な対策は地域住民によって発見されるのが望ましいという点であった。

この課題を踏まえ著者らは、地域防災の専門家としてのNPOと、地域の事情に詳しい住民が各々の知識を交換し共有を図りながら、地震に対する備えの最適な対策を立てるまでの過程を「地域診断」のプロセスと捉え、診断に必要な情報を収集する目的で地域防災力診断アンケートを設計した。アンケートで得られた情報を足掛かりに地域の弱点が発見され、それを克服することで結果的に地震への備えが向上するような活動を地域が実践できれば、これは災害に関するリスク・コミュニケーションの成功とみなせるであろう。

本稿では基礎的分析として、防災力指標の地域比較の考察を報告する。それと共に、NPOと住民の防災に関する認識の差を数量化I類を用いて明らかにし、それを住民に新しい知識として提供する表示手法を提案する。

2. アンケート調査実施までの経緯と設計

「地域防災力診断シート」と題したアンケートは以下の調査項目から構成される。(1)地震に

対する備えの主観的達成度(自己診断)、(2)防災NPOの過去のワークショップ経験から抽出された地域の防災力指標(ここでは各質問の回答を得点化した要素別の平均点を構成する7要素(家具・家屋の安全、備蓄、避難・避難所、災害時要援護者、地域のつながり、火災、連絡方法)計43問の質問。その例を以下に示す(括弧内は得点)。

・【家屋・家具の安全】自宅の家具の転倒防止などをしましたか? - した(10)・していないが検討している(5)・していない(1)

・【火災】地域の道路に消防車などの緊急自動車が入れますか? - ない(10)・ほとんどない(7)・たまにある(5)・よくある(1)

・【連絡方法】家族と緊急時の連絡方法を話し合っていますか? - よく話し合う(10)・たまには話し合う(7)・余り話し合わない(5)・話し合わない(1)

今回対象とする調査は表1に示す3地域で行われたものである。

表1 アンケートの対象地域

対象地域	実施時期	有効回答数
名古屋市東山学区	2004年12月	3613
愛知県阿久比町	2004年11月	1155
愛知県蟹江町	2005年1月	184

3. アンケートの実施と結果

3地域の防災力指標の結果を表2に示す。この結果からは、東山学区は他の2地区に比べ火災と地域のつながりの指標が小さいことがわかる。

表2 3地域の防災力指標

	家屋等の安全	備蓄	避難・避難所	災害時要援護者	地域のつながり	火災	連絡方法
東山学区	3.45	4.74	5.94	5.14	4.55	5.20	4.95
阿久比町	3.35	4.31	5.95	5.16	5.03	6.21	4.57
蟹江町	3.46	4.86	6.35	5.33	5.38	6.63	5.03

さらに、複数の専門家(NPO)に地域防災における上述の7要素の重要度の順位を尋ねた。その結果と上記の調査結果を用いて専門家と住民が重要視する要素の乖離を数量化I類によって分析した。以上の結果に関する詳細は発表時に譲る。